

# 令和7年度 銀の鈴幼稚園 自己評価報告書

- (1)評価実施日 令和8年3月26日(木) 自己評価 調査書回収後集計
- (2)実施対象 銀の鈴幼稚園本務教諭7名 回答数7名 回収率100%
- (3)実施方法 自己評価項目の設問に4段階で答える。  
1十分にできた 2.できた 3あまりできなかった 4できなかった
- (4)結果集計による評価

各項目を集計し、比率を公表する。75%以上を評価上「良好」とする。  
以上の結果を、5月22日(金)、年度末会議及び学園評議員会において下記の回答分析を共有し、後日行われる学校関係者評価とともに、ひとり一人の教育保育に携わる課題を認識し、教育活動の充実と質向上へとつなげていくことを目的とする。

## (5)教育目標

### 「みほとけさまを中心につよく、あかるく、げんきにのびる」

日々の教育は幼稚園教育要領で目指す「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という幼児教育のバランスをもとに幼児教育の原理、科学、技法、心理的働きかけ等を、日々の具体的な教育案に反映する。

その教育案を具体的な週案日案として計画しながら、願われる子ども像に近づけるよう、指導支援を行う。またご家庭への理解と協力をお願いし、保護者の皆様の幼稚園生活や行事への参加を呼びかけ、幼稚園一子ども一家庭の「つながり」を大切に保育教育に取り組むこととする。

### 【重点項目】

#### 1. その子にふさわしい発達を身につけ、自己肯定感をはぐくむ。

安心感を前提に、他者と協力して毎日を楽しみながら喜怒哀楽をたくさん経験し、その子どもにもふさわしい、その子ども独自の発達を受け入れ、尊重して、遊びや成長を支援する。

#### 2. 生活の中で支え合い、協力しあうことで、社会性、協調性をもつ。

生活習慣を身につけること、十分に自己発揮できるあそびに没頭すること、一定のルールの中で協調したりがまんしたりすることを重ね、緊張や自律と穏やかな気分の繰返しの中で、先生、お友達との関係を知り社会性 を身につける。

#### 3. 自分の心やイメージを感じ取り、情操と感謝をもてる子ども

銀の鈴幼稚園では、仏教の教えを背景とした幼児教育を行う。

《生命尊重》「皆かけがえない一人ひとりであることを自覚する」《報恩感謝》「自分への恵みに感謝してその恵みに応えていく。」

《和合精進》「人はつながりの中で生きる・思いやる・認め合う・ささえあう」

という仏教の教えをもとにした幼稚園生活を営み、自分の内面を意識し、命のつながり、時間や空間の不思議さ、敬虔さを抱ききかけをつくる。また様々な場面で感謝の気持ちをもって過ごしていく。

## (6)設問並びに回答の比率 (1+2 評価高比率 93.2% 3+4 評価低比率 6.8%)

### 1.全般について

(単位 %)

① 園の教育目標や方針、仏教保育の意味を理解し保育の中に取り入れようとしたか。	1+2	86	3+4	14
② 幼稚園教育要領を理解し、子どもの主体性を導く様な働きかけをすることができましたか。	1+2	86	3+4	14
③ 子どもの動き、子どもの興味や関心を考慮し、天気など様々な場面をイメージして指導計画を立案することはできましたか。	1+2	86	3+4	14
④ 前例ばかりに依拠することなく、時代に合った新しい保育の方向を取り入れていますか。	1+2	86	3+4	14
⑤ 自分の保育を振り返り、反省点や改善点を見付け次へ生かそうと努力していますか。	1+2	100	3+4	0
⑥ 仕事の分担や、勤務時間などを意識した働き方をしていますか。	1+2	86	3+4	14

### 2.子ども達とのかかわりについて

⑦ 子どもの気持ちを考えて、一人ひとりに合った対応を心掛けられましたか	1+2	100	3+4	0
⑧ 子どもの喜び・悲しみ・不満感を共有共感してあげることは出来ましたか	1+2	100	3+4	0
⑨ 同い年齢であっても個人差があることを理解し、子ども同士が繋がりがあえる様に関わることは出来ましたか	1+2	86	3+4	14

⑩一人ひとりの発達を理解した上で見通しを持って課題を見付けてあげられましたか	1+2	86	3+4	14
⑪園内にある自然の事象など保育に取り入れ、活かすことは出来ましたか	1+2	100	3+4	0
⑫ケンカも育ちの場と考え、見守りや危険が認められた際の仲介など、その時の状況や子どもの状態に合わせ対応を変えることは出来ましたか	1+2	86	3+4	14
⑬結果よりも子どもがその出来事の課程を楽しんで、頑張ってきた姿を認められる様な保育をしてこられましたか	1+2	86	3+4	14
⑭登園時には必ず視診を心掛け、保育中の子ども達の体調の変化(顔色・表情・食欲)に気づいたりする様に注意し、対応することは出来ましたか	1+2	100	3+4	0
⑮子ども達や保護者に対して丁寧な言葉遣いで対応出来ましたか	1+2	100	3+4	0
⑯自分のクラスの子どもだけでなく、様々な子どもの様子や情報を職員全体で共有し、見守ったり関わったりする様にしていましたか	1+2	100	3+4	0
⑰子ども達の呼び方は適正でしたか	1+2	100	3+4	0
⑱子どもの間違いにも禁止語や命令語はなるべく避け、肯定的な言葉を多く用いて伝えるときも、子ども自身が考えられる様にしてあげられていましたか	1+2	100	3+4	0
⑲保育全般を通じて 無理やり子どもの手を引いたり、体を押ししたりするような身体接触で、子どもの誘導や整列を強くないように心がけましたか。	1+2	100	3+4	0
⑳不適切保育と呼ばれる内容について、意識し自分の見直しをしましたか。	1+2	100	3+4	0
㉑子どもの身体に虐待によるあざや傷がないか時々チェックしましたか	1+2	71	3+4	29
㉒特別支援を必要とする子ども達の発達を考慮した上でその子どもに応じた配慮を心掛けましたか。	1+2	100	3+4	0
㉓教職員全員でひとつのチームであることを意識して仕事をする事が出来ましたか	1+2	86	3+4	14
㉔子どもを一人の人間として認め、子どもの権利や人権などを意識して接することができましたか。	1+2	100	3+4	0
㉕幼児教育に関する専門性を高めるための研修会などに積極的に参加されましたか	1+2	57	3+4	43
3.保育・行事の企画。準備。				
㉖衛生的な環境づくりや、感染症の拡大予防を行いましたか。	1+2	100	3+4	0
㉗固定遊具やその他の遊具の安全に留意し、定期的に目視で点検するなど危険箇所がないか把握しましたか	1+2	86	3+4	14
㉘園の備品など大切に使うことは出来ましたか	1+2	100	3+4	0
㉙子どもの対応に困った時、関わり方や解決方法を教職員間で話し合うことは出来ましたか	1+2	100	3+4	0
㉚保育のプログラムの臨機応変な変更なども教職員間で話し合い、実施できましたか	1+2	86	3+4	14
㉛行事を行う際、教職員間で十分に話し合い、共通理解をはかれましたか	1+2	100	3+4	0
㉜教職員会議の場で自分の考えを発言することはできましたか	1+2	86	3+4	14
4.保護者や地域との関り				
㉝保護者からの質問や相談に適切に応えられましたか。一人で判断出来ない事に対しては職員間で話し合っ伝える様にしていましたか。丁寧な言葉遣いが出来ましたか。	1+2	100	3+4	0
㉞個人情報取り扱いを十分に理解し、取り扱っていましたか。又、保護者のプライバシーや情報、噂話などむやみに口外することはありませんでしたか	1+2	100	3+4	0
㉟子どもがケガをした時などその状況と処置を保護者にわかりやすく伝えられましたか。又、その後の様子を尋ねたり、園での様子も保護者に伝える等、必要な事後処置をしましたか。	1+2	100	3+4	0
㊱保護者からのクレームや、適正な要望事項に対応し、チーム共有できましたか。	1+2	100	3+4	0
㊲保護者との距離感を保ち、公私混同せずに関われましたか	1+2	100	3+4	0
㊳保護者の批判や中傷をしないように心がけていましたか。	1+2	100	3+4	0
㊴実習生、新入教諭など、相手の状況を見て配慮する関わりや指導などができましたか。	1+2	86	3+4	14
㊵地域の繋がりがも大切であることを認識し積極的に挨拶や交流の機会を持ってましたか	1+2	100	3+4	0

## 総合自己評価結果 93.2 ポイント

◆令和 8 年度募集では顕著に入園者数が減少した。7年度から園児減少に備えたクラス編成や人員配置に少しずつ移っていくようにしているが、教職員にはコンパクト化して対応人数が減ることを、きめの細かい保育の質へのプラス材料につなげていく意識と環境作りの努力が必要である。また費用効果の観点からも幼稚園のコンパクト化が運営上必要となる。

そのために旧来の人数で行っていた教育形態を見直し、コンパクト化したからこそ可能になることに取り組むべきである。そのような考え方やアイデアを学ぼうとするうえで、研修への参加率が人手や多忙さに負けて下がってしまうことは改善されないといけない。

また家庭環境や発達に課題を持つ幼児への対応、探求力や主体性を喚起するような教育環境づくりの努力が、教育内容の変革につながっていくので、研修のもつ意味を見直すべきである。

◆児童福祉法の改正により、虐待、不適切な対応への社会的関心はいっそう高くなり、良かれと思う自分だけのルールや手法も、子ども達の利益になっているのかということ、合理的に考えていかなければならない。

# 令和7年度 銀の鈴幼稚園 関係者評価報告書

- (1)評価実施日 令和8年4月1日(水)~4月10日(金) 関係者アンケート回収
- (2)実施対象 令和7年度在籍児保護者75名・学校評議員3名 回答者41名 回収率52%
- (3)実施方法 「幼稚園における学校評価ガイドライン(文部科学省)」をもとに重点項目・設問等を設定  
評価項目の設問に5段階で答えた関係者評価アンケートをもとに実施。  
1 すごく思う 2 思う 3 どちらともいえない 4 思わない 5 わからない

## (4)結果集計による評価

各項目を集計し、比率を公表する。75%以上を評価上「良好」とする。

以上の結果を、5月22日(金)評議員会において結果分析を共有する。また自己評価結果とともにホームページに公開する。銀の鈴幼稚園における教育保育に携わる課題を認識し、銀の鈴幼稚園教職員、それをもって教育活動の充実と質向上へつなげていくことを目的とする。教育目標、重点課題については自己評価報告書参照。

## (5)設問並びに回答の比率 (肯定的解答・1+2 82 P 否定的解答・4 2P その他 3+5 16P)

1.教育内容について	単位/%	1+2	3+5	4
① 教育内容や教育課程、教育案などの編成は適切である。		83	11	6
② 子ども達の「やりたい」を尊重し、子どもの主体性を導く働きかけをしている。		81	14	6
③ 教育、保育を通して、子どもの自己肯定感や意欲、協調性、社会性が高まっている。		86	11	3
④ 教育、保育を通して、その子どもの姿や年齢りの発達や成長を身につけている。		83	11	6
⑤ 在籍時の教育、保育を通して、子どもに感謝の気持ちや情操、感性が育まれている。		86	11	3
⑥ 子どもにとって保育日数、保育時間は適切である。		78	19	3
⑦ 子どもにとって施設設備、遊具、教材等は適切である。		75	14	11
⑧ 子どもにとって行事の時期や回数、内容は充実している。		86	11	3
⑨ 友達との関係性や、広がり築くことができている。		81	17	3
⑩ 次年度学年、小学校進学などへの接続は無理なく円滑である。		83	11	6
2. 教職員について				
① 教職員の子どもや保護者に対する言葉遣いは適切である。		89	8	3
② 子ども達への言葉かけは禁止語、命令語などの言葉かけではなく、子どもに配慮されたものとなっている。		86	11	3
③ 子どもの気持ちを理解し、子どもの喜びや意欲、悲しさや不満感等に共感している。		86	11	3
④ 発達に課題のある子どもへ、支援意識がある。		78	22	0
⑤ はきはきと明るい態度や笑顔で子ども達や保護者に接している。		89	6	6
⑥ 子ども同士のケンカやトラブルに公平感を持って対応している。また保護者にも状況を伝えている。		75	22	3
⑦ 安全意識、衛生意識をもって教育、保育に取り組んでいる。		72	25	3
⑧ 教職員全体がチームとしてまとまって保育や教育、行事に取り組んでいる。		86	8	6
⑨ 保護者から相談を受けやすい態勢をとっている。		83	11	6
⑩ 保護者からの質問や相談に適切に対応している。		86	8	6
⑪ 保護者に子ども達の様子をよく伝えている。		86	8	6
⑫ 保護者からのクレームに対して適切に対応している。		61	39	0
3. その他の事項				
① 通知、メール配信、ホームページ、アプリ、SNSなどで幼稚園の様子が伝わっている。		78	11	11
② 安全(防災防犯)意識、衛生意識をもって運営されている。		83	8	8
③ 個人情報管理や守秘義務管理は適切に行われている。		83	11	6
⑤ 不測の事態の際に情報配信などの対応は適切である。		83	14	3
⑥ 預かり保育、給食実施など子育て支援の態勢は適切である。		83	8	8
⑥ 地域とのつながりを大切にしている。		75	17	8

## (7) 総合関係者評価結果 82 P

幼稚園関係者評価はおおむね良好である。「どちらともいえない・わからない」の回答分布で15P 以上のもの、否定的回答「思わない」回答分布が 10P 以上のものを赤文字で表示した。

否定的回答では 1-7「子どもにとって施設設備、遊具、教材等は適切である。」3-1「通知、メール配信、ホームページ、アプリ、SNS など幼稚園の様子が伝わっている。」で否定的回答が多く検討を要する。「どちらともいえない」「わからない」の回答の中で、「発達課題」「安全・衛生」「子どものけんかへの対応」「保護者クレーム対応」についてポイントが高い。それぞれ性質分類の違う項目なので、個別に原因を検討する必要がある。

少子化等による園児減少、幼稚園を取り巻く環境が変化している中で、幼稚園関係者、特に利用者である保護者のニーズや教育への意識が高まり、加えて共働きの増加など、子育て支援的な方向に集まりつつあるように感じる。

その中で自由記述にも記載された「預かり保育への満足度」について評価を頂いたことは、子育て支援への目標に近づいていると言えるが、今後のニーズを見る必要がある。

また国や都、区の子育て施策や制度も新設される中で、銀の鈴幼稚園のよさを消すことなく、幼児教育と子育て支援の連携、様々な制度への対応しながらバランスをとっていくことが重要となる。2歳児保育や誰でも通園制度、東京すくわくプログラムなどを利用しながら、満3歳時保育、年少3歳児保育につなげていくことが、幼稚園運営維持の重点になっていく。

また近年の不適切保育の内容、バス事故など、社会的に注視される項目も、安全対策マニュアルに反映し対応していく必要がある。